

ながおか・放課後子ども通信

令和7年2月3日発行(vol. 9) 長岡市教育委員会 子ども未来部 子ども・子育て課 ☎0258(39)2393

子どもは家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く

青葉台中学校 校長 佐藤 寿樹

「子どもは家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く。」これは青葉台中学校区の合言葉です。当校は大積・宮本地区を母体とし、青葉台の地に新設した今年で創立40周年を迎える学校です。現在、コミュニティ・スクール制度を活用し、学校と家庭、地域が一緒になって子どもの社会性や郷土愛の育成に取り組んでいます。具体的には、学校と地域が協働して行う合同防災訓練、生徒とお年寄りとで行う交流活動、地域ぐるみの挨拶運動などです。これらは育成したい生徒の力を関係者が共有して取り組むことで成果をあげています。

また、学力の向上という学校の悩みには、地域から放課後学習の場の提供について話をいただきました。テスト期間中の放課後、コミュニティセンターの部屋のいくつかを生徒の自習スペースとして開放してもらうものです。生徒からは、「家では気が散るけどコミスペだとやる気と集中が増してはかどりました。」「分かりやすく勉強を教えてください方もいて助かります。」「友達と一緒にやって勉強がとてもはかどりました。」といった感謝の言葉や期間延長のリクエストが多数あり、今年は夏休み期間も開いていただきました。

青葉台コミュニティセンター長 小林 正三

青葉台コミュニティセンターの2階にコミュニティスペースがあります。通称コミスペと呼ぶ30畳ほどの和室です。以前は青葉台児童館の一室でした。場所を借り受けて使用しています。誰でも利用できる場所として現在は各種教室や研修会の場所として利用できます。自由に入出りができ、ちょっとしたお茶の飲み場(みんなの居場所)として提供しています。中央図書館より本の貸し出しを受け300冊ほどの本を半年で入れ替えをして地域住民に利用していただいています。

コミュニティセンターを小中学生にも身近に利用していただきたく、夏休みに1週間程度、宿題の勉強会を開催することを決め退職した教員を募集し見守りを行いました。勉強ばかりでなく、運動も必要で卓球をはじめとした体力づくり、畳の部屋でごろりと横になってくつろいで休憩タイム、毎日15人前後の児童、生徒から参加していただきました。



小学生の様子



中学生の様子

「児童館・児童クラブ」の取組を紹介します

「協力し成長する子どもたち」

表町コミュニティセンター 主事 塩入亜希子

毎年、児童館に依頼しコミュニティまつりの作品展に出品してもらっています。今年のテーマは、「ハロウィン」。児童クラブの子どもたちが夏休みに相談し決めました。下絵は、いつも長期休みに来てくださる絵が得意な教育補助員、諸橋先生にお願いしました。遊びに来た一般利用の子どもたちも参加し、無心に貼り絵（壁画）制作に取り組んでいました。仲間と大作を作り上げた達成感と協力し合う楽しさを味わったようです。



完成した貼り絵

子どもたちが自由に遊べる場として

川崎児童館 専任児童厚生員 飯高 恵子

当館は、川崎小、川崎東小の児童が学校学年の壁を越えて関わること、そして幼児を連れてくる保護者、中学生の利用も多いことが特長かと思えます。これを踏まえ館ならではの遊びがあると考え、達成感を得てその醍醐味を楽しむ工作を毎月提供しています。LED を使った七夕やクリスマス飾り、レジンを使った髪飾りやペンダント、口を開けて動かせる獅子舞など。持ち帰った作品が親子の会話を弾ませ、子どもたちの好奇心や自尊心に繋がってほしい。厚生員3人でそう願って取り組んでいます。



館内に展示した子どもの作品

心と体を落ち着かせるクールダウンタイムの導入

おひさま児童クラブ 専任児童厚生員 高橋 昭子

生活態度の指導や子ども同士のトラブル等、対応に苦慮することが多く、2学期に入る時に「クールダウンタイム」を取り入れました。児童クラブに着いたら10分間話をしないで静かに過ごすことを説明すると、「えー、無理」と否定的な声が多く、うまくいかず不安でした。最初こそ、ウロウロ騒いだりしましたが、コミセンの協力で図書室をお借りできたこともあり、次第に、落ち着いてきています。もっと長くしたい子、10分も難しい子と様々ですが、取組が良い方向に繋がったと感じています。



クールダウンタイムの子どもたち

「放課後子ども教室」の取組を紹介します

「体験・交流が充実!与板放課後子ども教室」

JUICY FAN サポーター 佐藤 幸恵

与板放課後子ども教室は、年5回土曜日に季節の行事などを開催しています。毎回、創作・体験活動を午前・午後2つ行うほか、昼食も手作りします。先日のクリスマス会では、班ごとにゲームで獲得した食材を使って鍋料理を作りました。具材や味付けが予測できないワクワク感を楽しみ、食材を譲り合う思いやりを学びます。サポーターの準備には手間がかかりますが、「子どもたちを楽しませたいと思えばこそ」と話し合いながら、次回の計画に取り組んでいます。



食材を前に話し合う子どもたち

楽しむ子どもたちの期待に応えて

上組児童館長 関澤 明浩

今年度、昨年度休講していた教室「サイエンス」と「生け花」に「マジック」を加えて3教室で再開しました。教室によっては定員数を上回り、抽選によって参加を決めるほどの人気ぶりでした。月1回の教室でしたが、子どもたちは歓声を上げ、思い思いに活動を楽しむ姿を見ることができました。

来年度は子どもたちの期待に応え、コミセン事業等で関わった方を学習アドバイザーに迎え、更に教室を増やしたいと考えています。



マジックの練習

冬休みの活動より ～希望が丘「書き初め」 関原「門松づくり」～

希望が丘の書き初め教室では、21名が、一人一人講師にアドバイスをもらいながら真剣に筆を動かしていました。この教室は10年以上続いており、毎年参加している子もいます。4日目の最終日にはお気に入り作品1枚を選び、展示しました。



講師のアドバイスを受ける子ども

関原の工作教室では、14名が門松づくりをしていました。紙コップと色画用紙、折り紙等を組み合わせて、仕上げに紙コップをお正月らしいイラストや自分の好きな絵で飾って完成。お迎えに来たご家族に笑顔で作品を見せる姿が印象的でした。



仕上げの飾りつけをする子どもたち

「ごふく食堂」～初のイベント!盛り上がりました!～

令和5年から希望が丘コミュニティセンターで、毎月第3土曜日に開催しています。

現在は、お弁当配布が中心ですが、12月はクリスマスイベントで的当てゲームや会食を行いました。「(的に)当たった!」「ごはんおいしいね!」など、会場に広がる子どもたちの声でにぎわいました。



会食の様子



12月の食事

開催日：毎月第3土曜日 12:00～（事前予約必要）

場所：希望が丘コミュニティセンター

料金：大人 200円 小中学生 100円

未就学児 無料

問い合わせ：ボランティア連合会（崇徳厚生事業団）

TEL 47-2233

「児童クラブでものづくり」～児童厚生員全体研修会（後期）～

11月25日(月)に「児童厚生員全体研修会（後期）」を開催し、65名の受講者が長岡地域理科教育センター吉野貴明指導主事から身の回りにあるものでできるおもちゃづくりを教えてくださいました。講義をお聞きした後、各自6つのブースを回りながら実際におもちゃをつくりました。

《受講者の声 ～アンケートより一部抜粋～》

- 児童だけでは難しい物もありましたが、大人が作った物で遊ぶだけでも楽しめそうでした。自分で苦労して作った方が愛着がわくと思うので手助けしながらできたらいいなと思いました。
- 全体で作ることが難しいものは、土曜日等、少人数の時にぜひ作ってみたいです。
- たくさんの工作ができてよかったです。応用や工夫を考えていくのもよい経験になると思いました。児童館でも作ってみたいと思います。
- 早速持ち帰り、作ってみたいものがたくさんありました。子どもたちだったらこんなアレンジするかな、出来るかなと考えながら、私自身も周りの人と話ししながら協力しながら楽しくつくることができました。

この日紹介された物を放課後子ども教室で実践されたところもありました。

研修資料を児童館・児童クラブに送付しました。参考にいただければ幸いです。

